



《上部消化管内視鏡診断アトラス》

編集 長浜 隆司, 竹内 学

《下部消化管内視鏡診断アトラス》

編集 松本 主之

大名古屋ビルセントラルクリニック院長 藤田保健衛生大学名誉教授

芳野 純治

本書はどちらもA5判の大きさに、総ページ(索引を除く)は『上部消化管内視鏡診断アトラス』が247ページ、『下部消化管内視鏡診断アトラス』が237ページ、疾患数は前者が108疾患、後者が96疾患である。1疾患がほぼ2ページにまとめられ、左ページは「疾患の概念・特徴」と「内視鏡所見と診断のコツ」、右ページは画像である。左右は見開きになっており、「内視鏡所見と診断のコツ」を読みながら、画像を確認することができる。画像は書名が「内視鏡診断アトラス」とあるように診断の鍵となる内視鏡画像であるとともに、内視鏡画像の成り立ちを説明する病理組織像、X線像などが添えられている。内視鏡画像には通常の内視鏡像の他に、必要に応じて拡大内視鏡像、NBI像、超音波内視鏡像なども加えられている。可能な限り簡潔になるように編集されているが、内視鏡所見が多様な疾患では画像にページ数を多く割いている。

これらの画像は美しく鮮明である。執筆者による選りすぐりの画像であり、編者が画像にいかにかかわっているのかがよくわかる。そういえば、下部消化管の編者の松本主之先生は、医学雑誌『胃と腸』の編集委員長であり、上部消化管の編者の長浜隆司先生、竹内学先生はいずれも『胃と腸』編集委員である。また、執筆者に『胃と腸』編集委員の多くが加わっている。『胃と腸』は画像診断を重視しており、画像から病態解明などが行われてきた。そのこだわりを本書の随所に窺い知ることができる。その他の執筆者も内視鏡診断の一流の方ばかりである。

また、本文の「疾患の概念・特徴」と「内視鏡所見と診断のコツ」の説明は箇条書きで、疾患の概念・特徴、画像所見のうち何が重要であるのかが容易に理解できるようにしてある。本書をA5判の大きさにしたのは、持ち運びを容易にしていいつでも開けることを可能にしたかったのか、内視鏡室の机の上に邪魔にならないように置けるようにしたのか。しかし、考えてみると、A5判とコンパクトにしたため、大切なことが簡潔に記載されている。そのため、日本消化器内視鏡学会専門医を受験する際に疾患の特徴・所見はここに書かれていることを覚えていればよいのではないかとも思われる。記載された疾患は同学会の専門医カリキュラムに沿って精選されているとのことであり、本書を読みながら、内視鏡検査を行えば実力がアップすることは間違いないであろう。本書は消化器内視鏡診断に特化して編集されており、診断を行う者にとって座右の書であると言える。

上部消化管内視鏡診断アトラス

●A5 頁268 2020年10月

定価: 本体5,400円+税

[ISBN 978-4-260-04155-3]医学書院 刊

下部消化管内視鏡診断アトラス

●A5 頁256 2020年10月

定価: 本体5,400円+税

[ISBN 978-4-260-04156-0]医学書院 刊